

# 平成21年度病害虫発生予報第4号

平成21年7月1日  
愛知 県

## 1 普通作物

いもち病については、6月下旬の巡回調査で本田での葉いもちの発生を確認していますが、6月1～30日の間、BLASTAMによる葉いもち感染好適日の出現は少ない状況です。しかし、今後の気象状況に注意し、発生を確認したら適切に防除しましょう。各地の感染好適日など詳しくは、「いもち病(葉いもち)情報第2号」を参照してください。

セジロウンカは、巡回調査により県内各地の本田で生息が確認されています。トビイロウンカの飛来および発生は現在のところ確認されていません。飛来状況等は「ウンカ情報第1号」を参照してください。

斑点米の原因となるアカスジカスミカメなどのカメムシ類が、畦畔において平年より多く確認されています。日頃から畦畔や土手などの除草を行い、カメムシ類の生息密度を下げ、出穂期以降の水田への侵入を少なくするように努めましょう。詳しくは「斑点米カメムシ情報第1号」を参考にしてください。

フタオビコヤガ(イネアオムシ)は、やや多い発生となっています。昨年被害が多かったほ場では特に注意しましょう。防除薬剤等詳細は「フタオビコヤガ(イネアオムシ)情報第1号」を参考にしてください。

## 2 果樹

ナシ黒星病の発生が多いほ場が見られます。6月下旬時点での果実の発病は多くはありませんでしたが、今後の発生動向に注意しましょう。

カキ、ナシのうどんこ病の発生がやや多くなっています。今後増加する時期ですので、早めの防除を心がけましょう。

ブドウべと病は連続した降雨があると急激にまん延する場合がありますので、注意しましょう。また、ブドウ晩腐病は、梅雨末期まで感染しやすいので、降雨量が多い場合は予防を徹底しましょう。特に昨年多発したほ場では注意が必要です。

カキ角斑落葉病も、昨年多発生したほ場では伝染源が多いと考えられます。7月中旬頃までが感染時期になりますので予防を徹底しましょう。

果樹カメムシ類のフェロモントラップにおける誘殺数はやや少ない状態が続いていますが、予察灯における誘殺数は6月中旬から増加傾向となっています。これからは、ヒノキの球果を餌として成育します。今年のヒノキ球果の着生量は平年並です。球果が餌として適さなくなると果樹園に飛来しますので、十分注意しましょう。

モモのクワシロカイガラムシの有効積算温度を用いた第2世代ふ化予測日は、名古屋市が7月10日、豊橋市が7月15日、豊田市が7月16日です。しかし、気温によりふ化日が前後するため、ほ場で卵のうをよく観察し、ふ化幼虫を確認したら直ちに防除しましょう。なお、合成ピレスロイド系や有機リン系など土着天敵への影響が大きい薬剤の連続散布を避け、クワシロカイガラムシのリサージェンスを防ぎましょう。

チャノキイロアザミウマは、平年並の発生となっています。梅雨明け後は急増する時期ですので、「チャノキイロアザミウマ情報第3号」を参考に、適期防除を心がけましょう。

## 3 花き

キク(露地)白さび病の発生量は全体的にやや多い状況です。曇雨天が続き、気温が低めに推移した場合、発生が多くなりますので注意しましょう。

## 普通作物

・ 予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
イネ	いもち病 (葉いもち)	やや少ない	全域	6月の発生量はやや少ない 7月の気温、降水量、日照時間は平年並	- ±
	いもち病 (穂いもち)	やや少ない	全域(早期栽培)	6月の葉いもちの発生量はやや少ない 7月上旬の葉いもちの発生量はやや少ないと予測される 7月の気温、降水量、日照時間は平年並	- - ±
	紋枯病	平年並	全域(早期栽培)	6月の発生量は平年並 7月の気温、降水量は平年並	± ±
	セジロウンカ	平年並	全域	6月の発生量は平年並 予察灯における誘殺数は平年並	± ±
	ツマグロヨコバイ	平年並	全域	6月の発生量は平年並 予察灯における誘殺数は平年並	± ±
	カメムシ類	多い	全域(早期栽培)	畦畔における6月の発生量は多い 予察灯における誘殺数はやや多い	+ +
	フタオビコヤガ(イネアオムシ)	やや多い	西三河・東三河地域	6月の発生量はやや多い 予察灯における誘殺数は平年並	+ ±
	イチモンジセセリ(イネツトムシ)	平年並	全域	第1世代幼虫の発生量は平年並	±

・ 防除対策

〔イネ・カメムシ類〕

防除対策等詳しくは、「斑点米カメムシ情報第1号」を参照してください。

〔イネ・フタオビコヤガ(イネアオムシ)〕

防除対策等詳しくは、「フタオビコヤガ(イネアオムシ)情報第1号」を参照してください。

## 果樹

### ・ 予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ウンシュウミカン	そうか病	平年並	全域	6月の発生量は平年並 7月の降水量は平年並	± ±
	黒点病	平年並	全域	孢子形成量は平年並	±
	ミカンハダニ	やや少ない	全域	6月の発生量はやや少ない	-
	チャノキイロアザミウマ	平年並	全域	粘着トラップにおける誘殺数は平年並 6月のイヌマキにおける発生量は平年並	± ±
ナシ	黒星病	やや多い	全域	6月の発生量はやや多い 7月の降水量は平年並	+ ±
	うどんこ病	やや多い	全域	6月の発生量はやや多い 7月の降水量は平年並	+ ±
	シンクイムシ類	平年並	全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	±
	ハダニ類	平年並	全域	6月の発生量は平年並	±
モモ	せん孔細菌病	平年並	全域	6月の発生量は平年並 7月の降水量は平年並	± ±
	灰星病	平年並	全域	4月の花腐れの発生量は平年並 7月の降水量は平年並	± ±
	シンクイムシ類	平年並	全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	±
	モモハモグリガ	やや少ない	全域	6月の被害葉率はやや少ない フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	- ±
	ハダニ類	やや多い	全域	6月の発生量はやや多い	+
ブドウ	黒とう病	平年並	全域	6月の発生量は平年並 7月の降水量は平年並	± ±
	べと病	平年並	全域	6月の発生量は平年並 7月の降水量は平年並	± ±
	チャノキイロアザミウマ	平年並	全域	粘着トラップにおける誘殺数は平年並 6月のイヌマキにおける発生量は平年並	± ±
カキ	角斑落葉病 円星落葉病	やや多い	全域	昨秋の発生量はやや多い 7月の降水量は平年並	+ ±
	うどんこ病	やや多い	全域	6月の発生量はやや多い 7月の降水量は平年並	+ ±
果樹共通	カメムシ類	平年並	全域	予察灯およびフェロモントラップにおける誘殺数は平年並 ヒノキの球果量は平年並	± ±

・防除対策

〔ナン黒星病〕

発病葉や果実は伝染源となるので取り除き、園外へ持ち出す等処分を徹底しましょう。ベルコートフロアブルやスコア顆粒水和剤、ナリアWDGなどで防除しましょう。

〔ナシうどんこ病〕

昨年発生があったほ場や付近で発生が確認されたほ場では、ベルコートフロアブルやナリアWDGなどで防除しましょう。

〔モモ・ハダニ類〕

気温が高くなると急激に増加するので、早めにスターマイトフロアブル、ダニサラバフロアブルやマイトコーネフロアブルなどで防除しましょう。

〔カキ角斑落葉病、カキ円星落葉病〕

発生を確認したほ場や昨年発生したほ場ではラビライト水和剤、ベルコート水和剤やアミスター10フロアブルで防除しましょう。

〔カキうどんこ病〕

昨年多発したほ場では、早期落葉を防ぐためラビライト水和剤、ベルコート水和剤やアミスター10フロアブルなどで防除しましょう。

## 花き

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
キク (露地)	白さび病	やや多い	全域	6月の発生量はやや多い 7月の降水量は平年並	+ ±
	アザミウマ類	平年並	全域	6月の発生量は平年並	±

・防除対策

〔キク白さび病〕

被害葉は、切除して適切に処理するとともに、ラリー乳剤やストロビーフロアブルなどで防除しましょう。なお、耐性菌が心配されるため、同系統の薬剤を連用せずローテーション防除を行いましょう。

参考

東海地方 1か月予報(名古屋地方気象台6月26日発表)

予想される向こう1か月の天候

東海地方では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

向こう1か月の気温は平年並の確率40%です。

週別の気温は、1週目は高い確率60%、2週目は平年並または低い確率40%です。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率

〔気温〕 低い : 30% 平年並 : 40% 高い : 30%  
〔降水量〕 少ない : 30% 平年並 : 40% 多い : 30%  
〔日照時間〕 少ない : 30% 平年並 : 40% 多い : 30%

予想される天候の特徴

当地方の向こう1か月は、平年と同様に梅雨前線や気圧の谷の影響で曇りや雨の日が多いでしょう。(6月27日~7月24日の晴れ日数の平年値は約12日)。

「農業使用者のみなさんへ」

飛散防止にこれまで以上に留意し、農薬の適正使用に努めましょう。

農薬使用前にはラベルの内容を確認しましょう。

農薬散布後は、防除器具のタンクやホースも、洗いもれがないようにしましょう。

農薬は、安全な場所に鍵をかけて保管しましょう。

農薬の使用状況を帳簿に記載しましょう。

農薬の空容器は、ほ場などに放置せずに適切に処理しましょう。